

上野「文化の杜」新構想推進会議・ワーキンググループ（第1回）議事メモ

開催日時：平成26年1月29日（水）16：00～17：50

開催場所：東京藝術大学事務局第2会議室

出席者：辰野国立文化財機構理事、栗原国立文化財機構事務局長・（兼）東京国立博物館総務部長、生島国立西洋美術館庶務課長（小松国立西洋美術館副館長代理）、折原国立科学博物館理事、小室東京都美術館副館長、桜庭東京文化会館副館長、鈴木上野の森美術館事務局長、関東京都生活文化局文化振興部部長、五十嵐東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長、北郷東京藝術大学理事、畑中東京藝術大学理事・（兼）事務局長、清水文化庁政策課長

● 議事に先立ち、次の進行を行った。

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 上野「文化の杜」新構想の趣旨説明等

文化庁から、上野「文化の杜」新構想の趣旨や経緯、「第1回 上野『文化の杜』新構想会議」の審議概要等について説明があった。

4. 議事の公開

● 議題

（議題1）座長の選考について

北郷東京藝大理事が座長に選出された。

（議題2）上野「文化の杜」新構想に関するコンセプト等について

新構想のコンセプト等について各委員から以下の通り、現況報告等の意見交換を行った。

（主にハード面の整備に関する意見）

- ・ 現在上野公園一帯は、JR公園口改札前を通る道路と、東京国立博物館及び東京藝術大学前を通る道路によって分断されている。道路を地下化するなどして、公園としての一体化を図り利用価値を高めることができないだろうか。
- ・ 現在上野公園へのアクセスポイントは上野駅のみであるが、京成の博物館・動物園前駅を再開していただきアクセスポイントを増やしたい。京成であれば成田空港からも直結となり外国人を、また谷根千等を訪れる観光客らも取り込めるのではないか。
- ・ ハード面とソフト面、両方伴って革新・開発していかなければならない。
- ・ 第一に、各機関が整備・活性化されることが前提で、そうなれば上野公園全体が発展・活性化されるものとする。そのため、動員数増に関してはまず各機関それぞれが考え、単独で出来ることに関してはそれぞれの機関が自助努力を行った上で、各機関が重なってくる場所に関してははしかるべきところにまとまって依頼するという進め方がいいのではないか。

- ・ 第二に、各機関で動員数を2倍、3倍にしようとする、単純に言えば開館時間や展示場所を2倍、3倍にしなければ達成できない。しかし、現在の施設のままで限界がある。科博のプランとしては、例えば公園口前の線路側駐車場やJRの線路の上部分などに、建物を作らせてもらえないかと考えている。その際は、スケールにもよるが上野公園の各機関が共通で利用できるものにもできるのではないかと。
- ・ 第三に、公園口改札前の道路を地下化し、その部分を整備するというのもいい案と考える。
- ・ 上野公園をエコロジーの拠点にしてはどうか。また、災害時には文化財のシェルターになるなど、上野公園の各機関全体で災害時における防災の拠点化に向けて議論する必要があるのではないかと。
- ・ 上野公園の各機関が一括で熱源をまとめることが出来れば、その分各館での利用可能スペースを増やすことが出来る。
- ・ 道路の地下化を要求する前に、まず試行的に歩行者天国を実施してみて、どのようなメリット・デメリットがあるかを検証してみても良いのではないかと。
- ・ JR等と連携して、地域としての防災体制を構築してはどうか。
- ・ 上野公園の来場者が、施設に入場しないで気軽に入ることのできる飲食店が圧倒的に少ない。
- ・ 公園内の動線が非常にわかりにくく、案内しづらい。「ウサギを辿っていくと東京都美術館に着く」等わかりやすい動線が欲しい。また、本館は車が非常に入りやすく苦労しているため、人の動線も車の動線も整備して欲しい。
- ・ 来場者の利便性の向上のためにも、公園口前の道路の地下化及び駅前と公園の一体化を望む。
- ・ 日中は人が多くても、夜は人通り少なくとても暗い。街灯の設置など、夜の安全対策も考えて欲しい。
- ・ 上野公園の入り口がどこなのかわかりにくいので、シンボリックなものを設置しても良いのではないかと。飲食店の複合ビルにできたエレベーター前に、上野公園入口であることを示す看板等を設置してはどうか。
- ・ 来場者の交通の利便性を考えると、ぜひ京成電鉄と連携したい。
- ・ 公園の管理事務所が離れた場所にあることも大変不便である。せめて、公園の入口に窓口があると利用者は助かるのではないかと。

(主にソフト面の整備に関する意見)

- ・ 学芸員は難しいが、事務職について、上野公園の各機関でもっと人事交流を行えないかと。
- ・ 子供連れのための託児所があればもっと集客力が上がることが考えられるが、施設のスペースに限界があり、公園全体での託児所の設置が望まれる。
- ・ 例えば、託児所について、各機関交代制の共同託児所を設置すれば、回遊性が高まるとともに、運営経費の節減に繋がるのではないかと。また、看板をもっとわかりやすくし、かつ、適切な媒体で伝えるなど、できることから取組んでいけるのではないかと。
- ・ ロンドンオリンピック・パラリンピックの成功から学び、リオデジャネイロでのオリンピック・パラリンピック後から文化プログラムを開始したいと考えている。また、オリンピック開催前2ヶ月の間の短期集中プログラムや、東京オリンピック・パラリンピック後にも受け継いでいけるよう

な継続性のあるプログラムを現在検討中である。ロンドンオリンピック・パラリンピックの文化プログラムは3ヶ月で2000万人を動員したが、そのうち95%が無料イベントへの参加であった。

- ・ ハード面に関してはこのように進んでいるが、ソフト面は出遅れているのではないか。ソフト面、文化面も強化することを望んでおり、今回の検討に期待している。
- ・ 上野動物園も担当しているので、各美術館との共通チケット等の面で連携を進められればと考えている。
- ・ 現在、都美術館では、子供や障がい者の方を対象とした支援プログラムに取り組んでいる。各機関の優れた文化資産を連携によりもっと活用することができればさらなるプログラムの充実が見込まれる。
- ・ 具体的には、わかりやすい連携プログラムをいくつか開発することが望ましいが、その場合事務局の負担が増えてしまう。それに対応でき得る優秀な人材を確保できる処遇を含めた体制作りが必要である。
- ・ 上野公園の各機関の魅力を更に高めるため、ひとつのテーマパークのようにしてはどうか。
- ・ 現在、すべての施設が月曜休館であるが、休館日をずらしてもよいのではないか。外国人観光客が月曜日に来てしまったりしたら悲惨である。
- ・ 各施設はこんなにも近くにあるのに、訪れる人々が複数の施設を回遊・周遊するイメージがあまりない。それぞれの施設にバラバラに来ている人が多い。
- ・ 観光バスが止まれる場所が必要である。民間旅行会社との連携も出来るのではないか。
- ・ 地元商店街も含めて上野公園を発展させられないか。「(上野の)『山(杜)』と『街』の一元化」は、40年も前からの悲願だと聞いている。
- ・ 鉄道の駅の文化化という発想もある。例えば、デザイン性が高く、それぞれのデザインの異なる大江戸線の各駅に芸術作品(の模写など)を展示することで、駅及び大江戸線全体(あるいは上野近辺の数駅)が小さな美術館・博物館になる。世界に向けて、「日本の鉄道は、正確・安全・清潔に加えて文化的だ」とアピールできる。
- ・ 上野公園の各機関が一体となった広報活動・情報発信がもっと必要だと考える。
- ・ 上野の森美術館のツタンカーメン展では100万人の来場者が訪れた。また、子供の展覧会では3日で2万から3万人が来場し、キャパシティの限界に直面した。子供の展覧会に関しては、都に許可をもらい、上野公園で遊びながら時間をつぶしてもらい、決められた時間に入場するよう対応できた。このように、自らの敷地の外、公園内を使わせてほしいときも多々あるがなかなか都の許可が下りないのが現状である。都とももっと連携を進められれば増員できるのではないか。
- ・ 現在上野の森美術館周辺では子供たちが直接樹木に触れることができない。子供が自然と触れられる、遊べるものがあると良い。
- ・ 体験型の展示には大変多くの人々が来場する。体験型の企画をもっと実施していくべきである。
- ・ 仙台ジャズフェスのような街ぐるみの取組みを、上野公園でも年に何回か実施できないか。個々に企画はあってもなかなか全体に周知されないのが現状である。
- ・ 情報発信については、ホームページやブログなど、世界共通のツールを使ってデジタル発信をするべきだと考える。
- ・ 藝大学長の考えとして、「上野の杜を国際遊学都市に」というものがある。その為に、施設や電

車・バスなどの共通パスを作ったり、コンシェルジュ的機能の設置を提案する。

(主にグローバル化に関する意見)

- ・ 現在、東京国立博物館では、成田空港にパネル広告を設置しているが、諸外国では、空港に美術館・博物館のアンテナショップや小さな展示スペースを設けているところも多い。一館で同じことをやろうとすると負担が大きいのが、上野公園の各機関全体で協力して設置等することが出来ないか。
- ・ グローバルな広報のためにも、各国大使・公使・奥様方の観覧日を設けてはどうか。あわせて、国会議員等の観覧日も検討してはどうか。
- ・ 外国人観光客や東京近郊に在住する外国人をターゲットにすることで、集客数が上がるのではないか。観光業界や旅行会社など、外部団体と連携することも必要である。
- ・ 増員のためのターゲットは外国人だと考える。どうしたら彼らに興味を持ってもらえるか。オペラやオーケストラはもともと西欧で生まれたものであり、わざわざ外国人が日本に来て観たがるだろうか考えると、日本の文化や芸術、今日本でホットなものを紹介する必要がある。そして、今日本が世界に向けて独自に発信できる文化といえば、クールジャパンの一つ、アニメーションやマンガであると思う。これら「日本文化の今」がわかる場所が上野公園には不足していると思う。
- ・ 外国人観光客をターゲットにするにあたり、多言語化は必須である。
- ・ 現在外国人に人気の、日本のポップカルチャーを扱う施設があれば来場者も増えるのではないか。
- ・ 外国人アーティストが来日して創作・研究活動したり、一般の人が参加できるイベントやプログラムを実施したい。

(主に国家戦略特区に関する意見)

- ・ 東京都内だけでも各街にいろいろな魅力がある。今後、上野公園地区に関しても、上野の杜のポテンシャルを活かしつつ国家戦略特区を視野に検討していきたい。
- ・ 規制緩和に関する話があったが、人に対する規制緩和で望まれるものがあればこの場から発信できるのではないかと。たとえば、日本文化や伝統芸能を学びたい外国人が、上野公園の機関で受け入れた場合には在留資格の特例など、様々な工夫ができる。

(主に各機関の現況等に関する意見)

- ・ 東京国立博物館は2022年に開館150周年を迎えるが、その直前の2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックをターゲットに今後の将来計画や運営を考えている。
- ・ 西洋美術館は、2019年に60周年を迎えるので、それまでには、本館建物の世界遺産の登録ができるように考えている。現在は、年間約100万人近くの方が来場しており、世界遺産になることさらなる来場者の増加が期待される。しかし、1日あたり5000~7000人が来場することになると、トイレやクロークの不足が懸念されている。
- ・ 世界遺産のバッファゾーンに高い建物があると、ICOMOSが「バッファゾーンが形成されていない」と判断する恐れがあるので、バッファゾーンのビューポイントに新たに高さのある建物を

建てることや、駅ビルを高層化することは望ましくない。

- 平成19年から上野公園のグランドデザインの検討を始め、噴水広場の改修等が実施された。現在もなお続いており、平成27年に完成する予定である。
- 東京藝術大学が、「知の拠点」として芸術図書館のようなものを構想していたと思うが、実現の際にはぜひ東京文化会館の音楽資料館も入れていただきたい。
- 東京藝術大学は現在、美術館に約25000点の収蔵品、音楽資料を14万点ほど所蔵している。これらを、しまっておくのではなく「知の集積」として発信したいと考えている。アーカイブだけでなく、ホームページやモバイル等からのアクセスを可能にすることで日本の文化情報を伝え、ゆくゆくは世界に日本のよさを発信したい。この「発信」を、本学だけではなく上野公園の各機関と連携して行っていければと考えている。
- その一環として、東京藝術大学では国際芸術図書館（International Resource Center of the Arts）の設置を目指しており、ゆくゆくは秋葉原や神保町ポップカルチャーの街を巻きこんでさらに発展していきたいと考えている。

（主に入場者数に関する意見）

- 3000万人動員については、有料客・無料客にこだわらなくてもいいのではないかと。
- 上野における3000万人動員というのは重要なスローガンであると考えているが、展示のジャンルによっても集客率は変わってくる。当館の一般的な展示の場合、特別展では1日4000～5000人、現代美術展では1日約300人強である。
- また、ただ増員といっても、良好な鑑賞環境の確保とあわせて考えると、キャパシティの限界があることを留意してほしい。劇的増員は、開館時間の延長だけでなく、休館日やメンテナンスを含めオペレーション面での改革も必要になる。
- 動員目標3000万人というのは、有料入場者にこだわらず、上野地区全体に来た人の人数を対象にした方がいいのではないかと。

（その他の意見）

- 今までも上野地区では連携の話は何度もあったが、いつも立ち消えになってしまっていた。今回の新構想推進会議には、上野地区の各施設だけではなく文化庁・東京都・台東区・千代田区・文京区・交通系企業などが入り、相当程度の具体的な成果が期待できると考えている。
- 文化庁が中期計画を作成するにあたり、下村大臣の「2020年までに文化予算を倍増させる」との発言を、数値や時期を含め具体的に盛りこんでほしい。かけ声だけで終わらないようにしていただきたい。
- この新構想を社会に広く理解してもらうためにも、上野公園の各機関の連携を具体的に示すとともに、ビジュアルでわかりやすくプレゼンする必要がある。
- 「上野の杜」新構想は今までと違うなど、社会を納得させられるよう具体的に示すことが必要である。
- 昨年12月24日の会議は、このワーキンググループによる提言を真剣に検討し、実行してくれることが大前提であると考えている。どんなによいプランを作り上げても実行できなければまったく意

味がない。

- ・ 既成概念にとらわれていては何もできない。良いものはどんどん取り入れていくべきである。

(議題3) 今後の進め方について

北郷座長より、資料3に基づき説明があり、資料3の今後の進め方について了承された。

(議題4) その他

今回は、ヒアリングを行うこととし、事務局において今後の日程調整を行うこととした。

(以上)